

様式2

ちばの農林水産物品質向上推進事業 品質向上に係る計画書

1 申請者（事業実施主体）概要

名 称	株式会社房の駅農場G G A P 部会
代表者職氏名	岩本 真哉
住 所	千葉県市原市草刈194番1
電 話 番 号	0436-76-7123
F A X 番 号	0436-76-7125
連絡者職氏名	岩本 真哉
メールアドレス	iwamoto@yamasu.com

2 産地・地域の現状と課題

（1）現 状

株式会社房の駅農場では、近隣農家と連携し、農産物の販売を行っており、県内での店舗拡大を図り、県産農産物の取扱量が、年々増加している。

一方、新たな販路開拓として、本件の特産品である落花生について海外輸出を計画している。また、平成28年6月にイチゴのG G A Pを取得したところ、インドネシアからの引き合いがあった。

部会員のG G A P取得を推進し、生産行程を共通のプラットフォームで管理するとともに、有機肥料の施与や土壌分析を実施し、農作物は大学などの研究機関の調査・分析により客観的なエビデンスを得て、品質ならびに付加価値の向上を図る。

（2）課 題

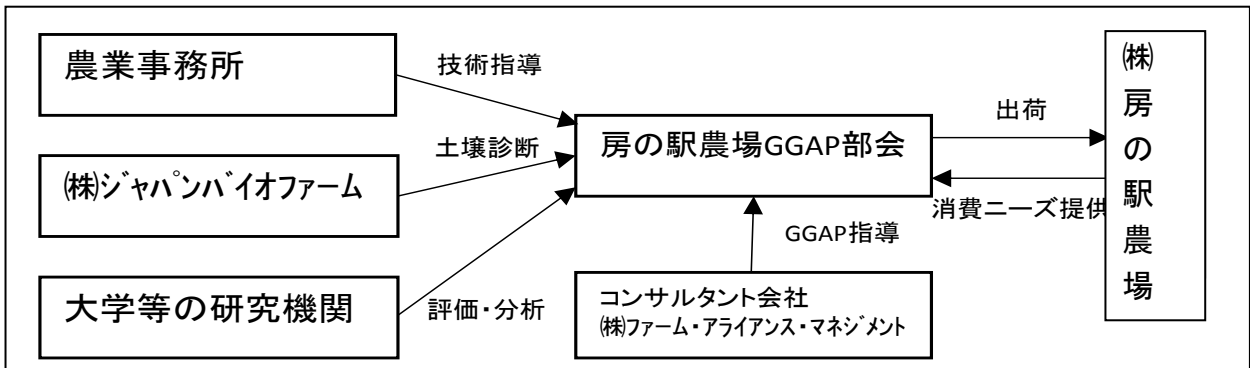
- ・ 海外向け輸出農産物の栽培体系の確立
- ・ 海外向け輸出農産物の生産者および生産量を増やす
- ・ グローバルG A P 認証取得者を増やす（現在取得に向けた取組開始7件）
- ・ 共有のプラットフォームによる生産行程管理
- ・ 土壌分析と有機肥料による農産物の品質向上
- ・ 研究機関による農産物の評価

3 品質向上に係る事業計画の概要

名 称	輸出農産物（落花生、イチゴ）への取組	
事業期間	平成28年度から平成30年度までの3年間計画	
指標の概要	海外向け輸出農産物の生産者を増やすとともに、他産地に対し、有利に取引を進めるため、G G A Pの認証取得を図る	
達成指標		
	現状指標	3年後
	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルG A P認証取得 1件 ・輸出品目 0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルG A P認証取得 10件 ・輸出品目 2品目（落花生、イチゴ）
年次毎実施予定内容とその目的等（箇条書きなど見やすい記載をしてください。） （また、欄が不足する場合は適宜追加してください）		
平成28年	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルG A P認証取得済1件（イチゴ） ・輸出相手国に適応したイチゴ試験栽培（取組中） ・落花生の新規生産者を増やして面積を増やす（6件6ha） ・落花生の試験輸出開始（未実施） <p style="text-align: center;">（補助金活用の有無：有 ちばの農林水産物品質向上推進事業）</p>	
平成29年	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルG A P認証取得予定8件（落花生、イチゴ） ・輸出相手国に適応したイチゴ試験栽培（相手国：東南アジア、中国など） ・落花生の新規生産者を増やして面積を増やす（7件7ha） ・落花生の試験輸出開始（相手国：東南アジア、アメリカなど） <p style="text-align: center;">（補助金活用の有無：有 ちばの農林水産物品質向上推進事業）</p>	
平成30年	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルG A P認証取得目標10件（落花生、イチゴ） ・輸出相手国に適応したイチゴ試験栽培（相手国：東南アジア、中国、アメリカなど） ・落花生の新規生産者を増やして面積を増やす（8件8ha） ・落花生の試験輸出開始（相手国：東南アジア、中国、アメリカ、アメリカなど） <p style="text-align: center;">（補助金活用の有無：有 ちばの農林水産物品質向上推進事業）</p>	

※補助金活用の有無は、本補助金も含めて、活用する補助金等がある場合にその名称を記入願います。

5 事業実施体制



6 管轄する農業・林業・水産事務所の意見

申請者は、今年度から新たな販路拡大として輸出への取組を開始した。また、平成28年度「世界に飛び出せ千葉の農林水産物」輸出促進事業を活用し、落花生の試験輸出を予定している。

輸出戦略として、イチゴと落花生をターゲットとし、輸出に対応できる、生産体制（GGAP取得、輸出国に対応した栽培体系の確立など）を整備することが急務となっている。

そこで、輸出に取り組む生産者を中心に、GGAP取得の推進、輸出国に対応した栽培体系の確立等を目指し、GGAP部会が設立されたところである。部会の代表者は、GGAPを取得しており、そのノウハウが部会員へ波及されることが期待されることから目標の達成が見込まれる。